



石見智翠館高等学校
人権・同和教育部

IWAMI CHISUIKAN HIGH SCHOOL IWAMI CHISUIKAN HIGH SCHOOL IWAMI

1年生3学期人権・同和特別授業

ある英国女性の人生に学ぶ (Susan Boyle の生き方)

1年生3学期の特別授業はスーザン・ボイルについて実施しました。イギリスの素人オーディション番組「Britain's got talent」に出場し、見事な歌唱力で有名になった人物です。しかし彼女の生い立ちという別の角度から見てみると、単純なサクセスストーリーではなかったことがわかります。彼女には難産の影響で、生まれつき発達・学習障害があり、またアスペルガー症候群でもあったので、十代の頃に壮絶ないじめを経験しました。彼女の歌の才能を最後まで信じていた母親の後押しもあってやっとオーディションを受けることになりましたが、有名になってからも様々な批判やいじめは続きました。でも彼女は最後まで夢をあきらめず、明るく前向きに現在も歌うことで人々に希望を与え続けています。最初にステージに立った時、審査員も観客も、彼女の風貌から、ばかにしたような態度をとりましたが、果たして私たちがあの場にいたらどのような態度をとっていたでしょうか・・・？



研修から学んだこと・感想・・・

「人というものは夢に支えられている！」そう思った。「何かを始めるのに遅すぎることはない」「障がいも生きていくために与えられた試練である」といった考え方の出来るスーザンは本当に偉大な人だと思った。スーザンに比べたらまだまだ若い自分らはもっともっとすごいことが起こせる、そんな気がした。また、スーザンのような人にパワーを与えられる人を、ばかにする人や卑下する人が少しでも減り、良さを分かち合う人が一人でも増えるようなそんな世界になってほしいと心から思った。

この学校に入学する時の夢とか、選んだ時の気持ちを忘れていたり、あきらめかけていました。この話を聞いて、夢を持って何かを始めるのに遅すぎるということはないという言葉で、部活を本気で頑張りたい、楽器に触れている時間が長くてうれしいという気持ちを思い出せました。夢を持って、自分は自分だという強い心をもって、負けないように頑張ろうと思いました。そして人を自分の一方的な思いや考えだけで決めつけず、その人を知ること大切にしていこうと思います。

スーザンさんは、小さい頃も、大人になってのオーディションでも、周りからの嫌がらせや批判を受けていて、きつとすごく辛かっただろうなと思いました。「傲慢な態度だ」とスーザンさんを批判する人もいたようですが、審査員の一人が自分の悪い行いを謝っていた時、明るい口調で何事もなかったように接していて「すごく心が広くて優しい人だな、素敵な人だな」と思いました。

今回の話を聞いて、人に対するイメージやレッテルの判断材料は何かということ深く考えました。私たちの生活の中で、今回の話のようなことをあてはめることがあると思います。個人的なフィルターや1つの言動を切り取ってそれらをふまえたもので人に対して決めつけないように気を付けなければならないと思いました。

私は中学3年間ラグビーをしていなくて、小学生ぶりに高校からラグビーを始めました。その中で日々感じていることは、3年間のブランクはとても大きいということです。中学校の間もラグビーをしとけばよかった。とか、高校からじゃ遅いかも。とか思ったりすることが多いです。でもこの動画を見て、遅いと感じていても、今の自分にできること、しないといけないこと、そもそも沢山ある高校の中で、なぜ智翠館を選んで、何をしに来たのかを今一度考えて、今まで以上に部活動も勉強も頑張ろうと思いました。高校からでも遅くなかった。と言える日が来るようにこれからも努力し続けようと思います。

よく考えると、私も入学当初に持っていた夢や、こんな風になりたいと想像していたことを、今失っている気がします。勉強や部活で苦しいことはたくさんあるけれど、立ち止まるよりも、自分に喝を入れながら、前に進んで夢を追いかけたいです。

もし私があの中観客の一人だったとしたら、どのような反応をするか、と考えたら、正直、観客や審査員の人たちと同じ反応をしてしまうだろうなと思いました。人を見ただ目で判断してはいけないと分かっているながらも、先入観を持っていたり、自分の周りの人の反応を見たりして、人の内面を見ず、外面だけで判断してしまいそうです。今日の話から、まず外面から入るのではなく、少しでも内面を見れるようになりたいと思いました。

批判をしている人たちは、スーザンのように純粋な心の持ち主ではなく、自分で自分を否定的にしているんだと思いました。夢を持つことは平等だと思います。見た目や行動、言動、すべてが完璧でないのは当たり前。夢を持つ人は輝いている人。持たない人は、その人がうらやましくて、批判したのではないかと思います。夢は他人の人が邪魔しちゃいけないです。夢を歳に関係なく、前向きに進もうとしている彼女は、本当に素敵で輝いています。自分もそのような人になりたいです。

よくニュースなどで、友達や部活などでうまくいかず、その気持ちを耐えることができずに「死」＝「自殺」してしまって、命を落としてしまう人のニュースをよく聞きます。やっぱり、私たちは人間だから、うまくいかないことだってたくさんあります。そういった中で「死」の方に考えるのではなく、「生きる」＝「夢を持つ」ことが一番大切だと感じました。なので、これから辛いことがあったとしても、日々努力をして過ごしていきます。